

東京バッハ合唱団 月報

[第 692 号] 2020 年 2 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101
Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604
Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 692

February 2020

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

佐々木まり子さんの「盛岡市民クリスマス・コンサート」を讃えて

バッハのカンタータ上演、原詞か訳詞か？

大村 恵美子 (主宰者)

佐々木まり子様・田口孝子様

このたびは、お早々と 12 月 14 日のコンサートの DVD をお送りくださりまして、ありがとうございます。私どものほうは、同じ 12 月 14 日に行なったコンサートを、いつもの技術師の方が録画しておられましたけれども、私たちに販売されるまでには、たいてい 2、3 か月ばかりかかります。終演後すぐにわかる反応といえば、聴衆のアンケート (同封いたします) のみで、今回はそれがいつもより多く、お褒めの言葉ばかりでしたので、まず好評だったのだと信じています。

田口孝子様 (盛岡月が丘キリスト教会牧師夫人) からは、お初にお声かけいただき、うれしくございました。日本語訳上演にご賛同いただける内容で、ありがたくお受けしました。

「主に向かって喜び歌おう」(詩篇 95 ; 1, 2) を実行する場合、私たちは、子どももおとなも、ドイツ語や英語で、それができるでしょうか。私は、ペンテコステの意味をいつも思うのですが、各自がそれぞれの自分のことばで同じ内容の神讃美をしてこそ、普遍の現象といえるのではないのでしょうか。その逆の例が、バベルの塔の話で、神にたどり着こうとして、自分の生きている処よりも高く、高く、塔を築いていった結果、途中で人間どうしのことばがバラバラに通じなくなって、神どころか、仲間の人間のあいだにさえも、隔たりができてしまったという、重大な誤まちが教えられています。

私たち東京バッハ合唱団が、これまでに行なった、5 回のヨーロッパ巡演の場合も、プログラムでは 1、2 曲だけ、バッハの音楽を日本語で歌うことにしていましたが、ドイツ・フランスの聴衆は、日本語がわからなくても、「バッハの音楽を、日本人たちが心をこめて歌っているのがよくわかって、感動した」と言われたのです。お別れのときも、私たちのバスを囲んで、みんなが親しく何かと話しかけて、見えなくなるまで手を振って送っていただきました。



■2019 年 12 月 14 日、盛岡市民文化ホールで行われた「盛岡市民クリスマス・コンサート」(写真は、記録 DVD からキャプチャー)。佐々木まり子指揮、少年少女合唱団も合唱に加わり、多彩な讃美歌とともに、大村恵美子訳詞の J.S. バッハ・カンタータ第 93 番《ただ主に依り頼み》Wer nur den lieben Gott läßt walten BWV 93 全曲も、堂々と演奏された (楽譜：東京バッハ合唱団出版局、2003 年発行)。

なお、同カンタータは、今夏、東京バッハ合唱団の公演でも上演される (7/24 東京神田・三崎町教会、8/6-8 信州コンサートツアー、当月報 p. 4 に演奏会情報)

一般に、私たち東京バッハ合唱団の働きに接して、大いに褒めてくださる方々が多いのですが、さてご自分方がコンサートをするという時は、必ず原語でなされ、日本語ではなさいません。聴衆が望まないからという言い訳をされるのですが、ご自身も、やはり本物はドイツ語、日本語はニセ物、というイメージから離れられないようです。

佐々木まり子様は、徹底してバッハは私の訳詞でコンサートをなさるようですが、正利様の東京でのコンサートは、一貫して原語のようですね。やはり、本音は、原語こそ本物、ということなのでしょう。この問題は、私の一生かけても、決着しないことのようなの

月報 2020 年 2 月号 CONTENTS

・75 年間つづく友情 (小栗静子) ...p.2 ・おたより (鈴木幸子、浜島和子、内山治子) / 新刊紹介「宇宙のカケラ」/ お勧めコンサート...p.2,3 ・2020 年演目解説/次回・次々回公演告知...p.4

で、僅かな賛同者のお1人でいらっしゃるまり子様に、ただ感謝のほかはありません。

これは、音楽に限られることなく、現代になって、海外の文化を全面的にとり入れた日本の国が、あらゆる面でまだこなしきれないでいる大問題として残っているものです。今後はどうなるのか、容易にはわかりませんが、盛岡市民ホールでのDVDでうかがいますと、とても勢いのよい大きな拍手が湧いているようなので、感動が大きかったのだと思います。

私には、澄んだ目の人間が、自分のことばへの態度を素直に感じとっている結果に思えるのです。まり子様のコンサートには、そのようなすがすがしさが伝わってきて、とてもクリスマスらしく、新鮮に感じられました。

東京でも、岩手でも、世界中どこでも、その地域らしくクリスマスが祝われているという実感で、ほんとうに満たされた幸福感でした。

また充実した新年を、共々に迎えましょう。

(2019年12月28日)

75年間つづく友情

小栗 静子 (団友)

私は1930年生まれの89歳。大村恵美子さんとは同学年。同じ女学校の転入生同士という関係です(その頃の旧姓は北澤)。実際に大村さんと出会ったのは1945年代ですが、その前の1935年代の話をさせて下さい。

私は女学校2年の夏まで神戸に住み、関西学院で聖書を教えている父と、日曜日には教会で着物を着てオルガンを弾く母との一人っ子として育ちました。1937年、小学1年生の時、支那事変があり、それからは日本は軍隊の力が強くなり、国内の様子が変わって来ます。

男子の学校では陸軍の将校が軍事教練をし、大東亜戦争初期には、宣教師の方々は交換船で本国へ帰られ、聖書の講義は出来なくなりました。父は退職後、家族と共に東京都北多摩郡狛江村へ疎開する決心をしました。女学校は、学区内の府立第五高女(現・都立富士高校)に転入しました。この学校は軍人の子女もいらっしや、すべてが軍隊式の学校で仲々なじめず、つらい思いをしましたが、間もなく授業はなくなり、上級生は工場等で仕事、2年生の私達は学校工場と言って教室で東芝の仕事(飛行機の部品の配電盤の配線)の仕事をする事となりました。

“月・月・火水木金・金”と歌って働きました。

3月10日の東京空襲で校舎(新宿)が全焼した後は、暫くしてから神田の共立講堂で天気予報通信の為の乱数表の手書き写しの仕事に代りました。

1945年8月15日、終戦を迎えました。

戦後の授業で楽しかったのは「音楽」でした。皆で

「コールユーブンゲン」を練習したり、いろんな曲のコーラスも。私もやっと第五生活になれた頃、サン写真新聞社主催の音楽コンクールで全学年のコーラスで参加することとなり、大村(当時は鈴木)恵美子さんと会い、大村さん指揮、私のピアノ伴奏と言うことで、二人はすぐ仲良くなり、2位にも入賞しました。生徒が指揮した学校は他にはありませんでした。

森井眞先生には1年間西洋史を教えて頂きました。

卒業後は別の道を選んだので、大村さんとは疎遠になって居たのですが、神奈川県大和市南林間に住むようになって、或日、小田急線・南林間駅の近くでバッタリ「恵美ちゃん？」という感じで再会。それからは東京バッハ合唱団のことも知り、南林間の高座教会のみどり幼稚園のママさんコーラスの指導もお願いしたりで今に至って居ります。長い長いお付き合い。

大村恵美子さんは私の大切なお友達です。

(書き続けるとキリがないので、ここまでにしておきます)



■写真上：筆者の小栗静子(旧姓北澤)さん(右)と主宰者。

■写真下：上掲の全体写真。音楽コンクール全学年コーラスの練習。当時は新宿区歌舞伎町にあった第五高女校庭にて。写真提供、筆者。



お・た・よ・り (敬称略)

鈴木 幸子 (後援会員)

11月号の大野博人様のご寄稿文、たいへん興味深く読ませていただきました。ありがとうございました。

浜島 和子 (支援会員)

Merry Christmas! きっぱりと冬が来たと思いきや、ときどき10度近い日もあって、真っ白い景色が続かぬ札幌です。12月14日のコンサートの招待状ありがとうございました。残念ながら伺えず、申し訳ありません。こちらの教会でも、クリスマスの準備が進み、ハレルヤコーラスの全員練習などに声を張り上げています。コンサートの盛会をお祈りしています。

内山 治子 (支援会員)

いつも月報を楽しみに読ませていただき、あなたが
お忙しい中にも、常に学んでいられることに敬服して
おります。今の世界、日本の社会状況は、ご指摘のと
おり、逸脱状態といっても過言ではないと感じており
ます。

私も最近、キリスト誕生前のユダヤ・ハスモン朝の
ことを勉強し、辺地のガリラヤで、どういう人たちに
福音が宣べ伝えられたか、どういう人たちと戦ったか
を知り、イエス・キリスト像が変わり始めてきました。

教会に通っている人たちが何をすべきか考えなく
はと思いつつ、はや90歳という年齢に逆らえない自分
が情けない思いです。

新しい年のバツハ合唱団の、さらなる前途を心から
お祈り申し上げます。

新刊紹介

佐治晴夫 著

『宇宙のカケラ 物理学者、般若心経を 語る』



毎日新聞出版
2019年8月30日発行
本体1600円
四六判・224頁

- 第1章 「自分」はどこにあるのか
- 第2章 般若心経の世界
- 第3章 現代宇宙論から見た般若心経
- 第4章 人生と宇宙時間
- 第5章 人生の行く先

時間とは、心のなかでつくられている幻想のよ
うだ——。後悔しない生き方とは？ 科学のま
なざしで読み解く「般若心経」感動の宇宙講義
(カバーより)

明るい文体で、読みやすく、分かりやすく、著者の
文章は、とても好ましく受け入れられます。無知な仏
教理解を、なんとか深めようとしても、お経の多さ、
難しさにたじろいで、臆病のままでこの年まで来てし
まった私にも、一条の光が差し込んだ思いです。著者
の温顔そのもののような文体をたよりに、多くの方が、
新年からの行動の原動力として接してくださることを
期待するばかりです。

世界中が、今こそ笑顔づくめになれるよう、努力し
てゆきましょう。(大村恵美子)

お勧めコンサート

ドヴォルザーク：二つのセレナーデ
ハイドン：チェロ協奏曲
2020年4月5日(日曜日)
13:30~16:00
神奈川県立音楽堂

主催：ARS

Collegium Armonia Superiore Japan

入場料：1000円(65歳以上無料)

(入場券お問い合わせ：midorigaoka.memorial.assoc@gmail.com)

主催のARSは、東京バツハ合唱団の昨夏の小布施・野尻
湖巡演から、年末の2か所のクリスマス教会コンサートと、
たてつづけに共演してくださった市民オーケストラで、月報
読者の皆さまもお馴染みのことでしょう。中心メンバーの椿
ご夫妻(両オーボエ：高明さんと奏重さん)のご子息、周さ
ん(中3)がチェロの独奏本格デビュー。楽しみです(笑)。

ARSの椿高明氏よりメッセージ (Facebook)

一家3名が出演するコンサートのお誘いです。4月5日午
後、横浜においてになりませんか？

一昨年から参加しているオーケストラ、今回は次男の周
(あまね)がチェロ協奏曲の独奏者として初登場します。昨
年アンコールで少しだけ独奏を弾かせていただきブラボー
をいただきましたが、昨年ジュニアのチェロコンクール
で中学生日本一をいただき、このたび本格的にハイドンの協
奏曲二長調を共演させていただくことになりました。高明と
奏重はオケ伴奏です。

佐治 晴夫 様

思いがけなく、このたびもクリスマス・プレゼントぴった
りのご著書をお送りいただきまして、本当にありがとうございます
でした。12月1日に届いたご本を、そのまま早朝までに一
読させていただきました。

何よりも読みやすく、分かりやすく、日ごろ仏教の本を読
みたいと思いつつも、その膨大さや難解さ、選びがたさな
どにたじろぐばかりで、我ながら無知をかこっているもので
すから、大喜びで拝読した次第です。

お許しいただけるなら、月報向けにも、ご本のカバーに記
載の内容をそのまま拝借して、ご紹介したいと思うのですが
如何でしょうか。どうぞよろしく、ご配慮のほどお願い申し
上げます。

12月2日、大村恵美子

大村 恵美子 様

拙著をお受け取りいただいたとのこと、しかも、すぐにお
読みくださったこと、たいへんうれしく思います。十分には
書ききれなかったところもありますが、本年刊行した本の中
では、いちばん力が入った本です。サンスクリット原文から
の読解は難難を極めました、なんとか、通読できました。

宗教間の抗争や極端な個人主義が台頭するなか、科学で実
証可能な宇宙の様相から、少しでも教養としてでも、平和へ
の道が開ければという思いから書いたものでした。一気に読
んで下さったことに、心からの感銘を覚えております。

また、会報にご紹介くださることもほんとうにありがた
うございます。どうぞ、ご自由にお書きくださって結構です。

来るべき令和2年には、ぜひともお目にかかれる日がきま
すことを祈っております。とりいそぎのご連絡、失礼いた
しました。

12月3日、佐治晴夫



2020年、前半の演目解説

前号、前々号からつづく。公演予定は、右の囲み参照

大村 恵美子

⑤ 《お喋りはやめて お静かに》(コーヒー・カンタータ)

Schweigt stille, plaudert nicht BWV211

【初演】1734年以前と推測(当時ライプツィヒ市でもコーヒーは輸入されて流行したようだが、数ある市内のコーヒー店のいずれかで初演か)

【歌詞】ピカンダー(1732年。ただし第8曲アリアまで)。以下2曲の歌詞作者は不詳(バッハ自身か?)。

【編成】独唱 S(娘・リースヒェン)、T(語り手)、B(父・シュレンドリアン)、合唱または3重唱(STB)、Fl、VnI/II、Vla、通奏低音(Cemb)

【演奏時間】27分。

1) レチタティーヴォ(T):「お喋りはやめて お静かに」……ドラマの始まりを告げる通奏低音の付点音符には、con pompa(壮麗さをもって、華やかに、おおげさに)という指示があり(3小節目)、語り手のテノールは父親(バス)と娘(ソプラノ)の登場に注意をうながす。弦・通奏低音、1分。

2) アリア(B):「子どもというものは 厄介千万なもの」……父親が娘のカフェ好きに愛想をつかして、困惑をくり返す独りごと。弦、通奏低音。ニ長調・4/4、2分。

3) レチタティーヴォ(S/B):「ばかものはねつかえりめ」……父と娘の無遠慮なやりとり。通奏低音。1分。

4) アリア(S):「おいしいカフェ 大好き」……娘の恍惚たる本心の歌。フルート・オブリガートが娘の有頂天な歌に、いやがうえにもはなやかな感傷をかき立てる。横型フルート、通奏低音。ロ短調・3/8、4分。

5) レチタティーヴォ(S/B):「カフェ狂いには」……ここから、何が何でも止めさせたい父親と、他のことなら何でも聞かすが、カフェ愛飲だけは、だめ、という娘との、心理作戦のかけ引きが始まる。通奏低音。1分。

6) アリア(B):「わがまま娘ども 口説いて負かすのは楽じゃないぞ」……したたかな相手を意識した父親は、これならどうだ? と半信半疑の作戦を、おそろおそろ仕掛けてみる。通奏低音。ホ短調・4/4、3分。

7) レチタティーヴォ(S/B):「では わしの言うことを」……娘への交換条件を父が提出; 結婚相手とカフェを取り換えて、実行せよ、と。通奏低音。1分。

8) アリア(S):「きょうにも パパ お願いよ」……ジークの舞曲リズムにはずむ、娘の目論見。ダ・カーポの始めの部分では、「カフェ」の一言も出さず、もっぱら「素敵な方」(原詞 ein Mann)との出会いを、父親にせがむ娘。ところが中間部となると、ガラリと娘の本心によるどんでん返し、しかも欲しいものを両方もせしめようという、父親をはるかに凌ぐ娘の狡猾さが洩らされる。ヴァイオリンI/II、ヴィオラ、通奏低音。ト長調・6/8、6分。

9) レチタティーヴォ(T):「旦那は すぐにも婿を」……父親は、娘が分かってくれたのかと思って、婿さがし

<次回公演>

■夏季特別演奏会(日本語上演、近日中に詳細)

- ① カンタータ第113番《イエス 高き宝》
- ② カンタータ第93番《ただ主に依り頼み》
- ③ カンタータ第78番《イエス わが心を》
- ④ カンタータ第184番《待ち望みたる 喜びの光》
- ⑤ 《お喋りはやめて お静かに》(コーヒー・カンタータ)

東京公演

◇三崎町教会(千代田区神田)、7/24(金/祭日)午後2時

②、④、⑤

◇荻窪教会(杉並区)、7/25(土)午後2時

①、③、⑤

独唱: SATB 交渉中(藝大カンタータクラブOB等)

室内楽: ARSメンバー、鍵盤: 中澤未帆

合唱: 東京バッハ合唱団、指揮: 大村恵美子

信州コンサートツアー

“バッハ・カンタータ名曲集、二重唱アリアの醍醐味”

①(抜粋)、②(抜粋)、③、④(抜粋)、⑤

◇野尻湖神山教会、8/6(木)午後6時

◇軽井沢追分教会、8/7(金)午後2時30分

◇小布施ミュージアム、8/8(土)午後2時

独唱: S 光野孝子、A 谷地畝晶子

室内楽: ARSメンバー、鍵盤: 中澤未帆

合唱: 東京バッハ合唱団、指揮: 大村恵美子

<次々回公演>

■第119回定期演奏会(日本語上演)

●カンタータ第110番《喜び 笑いあふれ》

●《クリスマス・オラトリオ》前半3部

日時: 12/6(日)、夜(午後7時開演の予定)

会場: 三鷹市芸術文化センター「風のホール」

※定期演奏会は、会場確保に困難をきたしていましたが、上記に決定しました。「土曜午後の都心での公演」が理想ですが、改善でご容赦ください。625席、洋楽に特化した音響と風格の中ホール、好評です。三鷹駅からバス停3つ目、降りて1分。

光野孝子S、野間愛A、平良栄一T、山本悠尋Bの独唱陣に、今回もARSメンバーの共演によるフルオーケストラ編成で、久しぶりの《オラトリオ前半》完全上演が実現します。お待たせいたしました、お楽しみに。後日詳細。

を始めにかかるものの、じつは娘のほうが出たか、次のような独りごとを明かしてくれる。「いつでも カフェを淹(い)れてオーケー」という証文をくれる人でなければ、私の夫にはしない、と。通奏低音。1分。

10) 合唱、または3重唱(S/T/B):「猫は鼠捕りを 娘はカフェをやめぬ」……前々曲8)の娘のアリアで、これまでの最長6分をかけて、娘に軍配が上がりそうになって来たが、果たしてフィナーレの合唱(10)では、娘は首尾よく夫を授かり、そのうえカフェも絶やさないうすむという、勝利の合唱を、母親・祖母まで引き合いに出して、7分も費して歌い上げるのだ。横型フルート、ヴァイオリンI/II、ヴィオラ、通奏低音。ト長調・2/2、7分。

当合唱団で、この作品がどんな時機に、どんな形でとりあげられるものか、催促もつねに絶えなかったので、思いきって日本語訳を完成させて、ご披露に及ぶことになりました。皆様の反応をぜひおきかせいただけますよう、楽譜の完成(3月発売開始)も併せて、ご報告いたします。